報告資料１－２

令和7年11月27日
新潟市下水道部
下水道計画課

施策２　雨に強いまちづくり　（抜粋）

１．目的・背景

■総合的な浸水対策による浸水被害の最小化

◆気候変動の影響を踏まえた浸水対策の強化

・近年は、全国各地で水災害が激甚化・頻発化しており、気候変動の影響による降雨量が増加し浸水被害リスクの増大が懸念されています。
・本市の下水道においても、このような状況を踏まえ、市民の安心・安全な暮らしを守るため、浸水被害の軽減を目指した雨水管やポンプ場などの抜本的な対策を進めていますが、完了には長期間を要することから、短期対策として局所的な対策を併せて進めるなど、浸水対策の加速化を図ります。

◆本市の整備状況

・浸水対策は、ハード整備＊1の着実な推進と併せ、ソフト対策＊2を組み合わせた「総合的な浸水対策」への転換、また、床上浸水が多発する地区など重大な被害が生じる恐れのある地区を「重点地区」として、優先的に整備することが求められています。
・本市は、概ね10年に１回発生する降雨（最大１時間あたり約50mm）に対するハード整備を進めています。一方で、下水道施設によるハード整備には限界があるため、ソフト対策として市民が自ら行うことができる浸水対策である防水板、貯留タンクなどの自助・共助対策への支援も推進していきます。

＊1　ハード整備… 管渠、ポンプ場や貯留施設などの下水道施設の整備を行うこと。
＊2　ソフト対策… ハザードマップ、水位周知下水道などの情報提供や自助支援など。

【雨の強さと降り方】

２．これまでの取組

（A）浸水対策施設の整備
◆雨水幹線、貯留管、調整池、ポンプ場など

（B）自助・共助対策への支援
◆各種助成制度の継続
◆浸水ハザードマップの活用

（C）既存ストックの活用
◆田んぼダムの活用（関係者との協働）
◆水位周知下水道の導入

市民向け各種助成制度

【浸水対策施設 東区大石２号貯留管】貯留量16,700㎥

【浸水ハザードマップ】東区役所周辺図と凡例

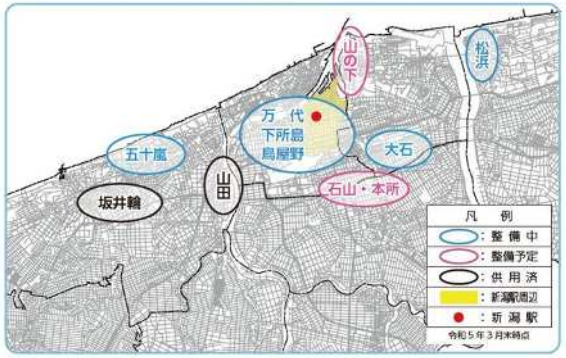
３．今後５年間の取組

（A）浸水対策施設の整備
◆雨水幹線、貯留管、調整池など

（B）自助・共助対策への支援
◆雨水出水浸水想定区域図の作成
◆各種助成制度の継続
◆浸水ハザードマップの活用

（C）既存ストックの活用
◆田んぼダムの活用（関係者との協働）
◆背割排水路の改修

【主な整備地区】



４．目標（指標）

項目	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
【施策指標】						
浸水対策率	76.8%	76.8%	→	→	→	79.2%

項目	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
【取組指標】						
■浸水対策施設の整備						
鳥屋野・万代・下所島排水区	工事継続	→	→	→	→	→
山の下排水区	工事着手	→	→	→	→	→
松浜排水区	工事継続	→	→	→	→	→
本所排水区	－	－	－	工事着手	→	→
浸水対策マスタープランの作成	課題整理・検討	評価指標検討	計画策定公表	－	－	－
■自助・共助対策への支援						
ハザードマップの活用	出前講座開催	→	→	→	→	→
雨水出水浸水想定区域図の作成	2/8	4/8	8/8	－	－	－
各種助成制度	制度継続	制度継続 普及啓発	制度継続	制度継続	制度継続 普及啓発	制度継続
■既存ストックの活用						
田んぼダムの活用	運用継続 効果検証	→	→	→	→	→
背割排水路の改修	工事継続	→	→	→	→	→

【施策別事業費】　（単位：億円）

項目	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
雨に強いまちづくり	28	48	52	50	51	50